

編集 後記

明けましておめでとうございます。2017年は酉年です。昨年来、鳥インフルエンザへの対応が健康危機管理上の大きな課題となっていますが、一方で鶏は吉兆をもたらす動物とも言われているようです。さて、本号には原著3編と資料1編が掲載されています。原著3編はいずれも地域に在住する高齢者を対象とした研究です。

まず、心疾患で在宅療養する地域在住高齢者の心身機能について検討した論文では、近年注目されているフレイルと心疾患との関連についても記述されています。2編目の要支援認定を受けた高齢男性の社会活動とその目的に関する論文では、社会活動に参加する目的として男性ならではの要素が抽出されています。その要素に高齢者でなくとも納得できてしまったのは私だけでしょうか。長野県須坂市の保健指導員活動は地域保健では有名ですが、その地区組織活動への参加が入院医療費と関連している可能性を示した論文が3編目です。先の論文と併せて、高齢者の地区活動に関する男女の特徴を知ることができる大変興味深い論文であると感じました。資料は地理情報システムを用いて地理的特性と自殺率との関連を生態学的研究として示した論文であり、自治体の区分を市町村合併前とするか合併後とするかで特性が異なる点が示されています。

今年も本誌が公衆衛生の発展に寄与できますよう、多くの皆様からのご投稿をお待ちしております。よろしくお願ひ申し上げます。
(上原里程)

次号予告 (第64巻・第2号)

原著

保健師による「活動の対象とめざす成果」の記述の実態……………福川京子, 他
東日本大震災後における生活習慣病のリスクがある避難者への電話支援による調査票への回答および医療機関受診の効果: 福島県県民健康調査……………堀越直子, 他

Public Health Report

Subjective Experiences of a *Yogo* Teacher with Reference to Health Support Activities Carried Out in the First Year after the Great East Japan Earthquake: A Case Study Based on a Narrative Approach……………Chiharu AOYAGI, et al

資料

新聞に掲載されたがん予防関連記事の内容分析……………宮脇梨奈, 他